

2022 年度 教員相互の授業参観 報告書

目次

国際英語学科	国際英語専攻	p. 1
人文学科	日本文学専攻	p. 3
	歴史文化専攻	p. 4
	歴史文化専攻	p. 5
国際社会学科	国際関係専攻	p. 6
	経済学専攻	p. 7
	社会学専攻	p. 8
心理・コミュニケーション学科	心理学専攻	p. 9
	コミュニケーション専攻	p. 13
数理学科	数学専攻	p. 15
総合教養科目運営委員会		p. 17
第一外国語運営委員会		p. 19
情報処理教育運営委員会		p. 23
教職課程運営委員会		p. 25
学芸員課程運営委員会		p. 27

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2023 年 3 月 3 日
国際英語学科・国際英語専攻

科目・専攻・委員会名 _____

主任・委員長等責任者氏名 溝口昭子 主任

授 業 科 目	第二言語習得演習	授 業 担 当 者	Kimberly Klassen
授 業 形 態			
授業参観実施日	10 月 26 日 (水) 2 時限	参 観 者 数	<u>3</u> 名 (内、非常勤講師 <u> </u> 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

The class was conducted in the form of a seminar. In the first half, the students' literature review was discussed using a lot of pair work. In the second half, students learned how to paraphrase, quote, and summarize the secondary sources. The Googleclassroom was projected on the screen, enabling the class to be interactive.

① In the Department of English, language education-related subjects have rarely been taught in English. Therefore, we thought it was a good opportunity to observe 第二言語習得 class, taught by Klassen-sensei, a language education specialist, so that we could observe not only how the subject is taught but also how content classes can be taught in English in the best possible way.

② Observers' feedback and the Chair's feedback

Observer 1

-Very good at warming up the class.

-When discussing some of the students' examples of paraphrasing, the teacher aptly pointed out what can and cannot be changed in paraphrasing; to be specific, correlation and causal relation are not interchangeable.

Observer 2

- The class is well prepared and arranged. Time management is also good. The teacher gave a lot of time for students to make pair discussion and good questions to encourage them to think about their answers.

- The use of Google Classroom is also good. Using a shared file gives me some hints on how to use Google Classroom.

- The answer slide might be improved, for the pre-arranged slide has a fixed order of option answers while student's answer do not match the order. In addition, using Google slide might be visually more appropriate for this purpose.

- The content this week might be appropriate to a class for basic academic writing. How to paraphrase, cite, and summarize needs good exercises, and contents and style of this class are highly quite suitable for the purpose. I personally believe this content in this style should be included in syllabus of Academic writing for the second-year students.

- On the other hand, I somehow wonder how this content might be situated for a seminar for second language acquisition.

- As for the technical side, we should share her use of Google Classroom. In addition, in order to use Google Classroom fully, I would like to ask our university to create a stronger WiFi network environment.

③ Observer 3

The class was conducted very smoothly. Whenever Klassen-sensei posed question to the students, she always gave the students time to work in pairs to come up with an answer to that

question. This approach allowed the students to share the meaning of the question and how to answer it without any student falling behind, and it allowed them to come up with some answers to the question in English.

If she had pointed to each student and asked a question without giving them time to think, the students (who are not accustomed to speaking in English in front of others without fear of making mistakes,) would have been confused by the sudden English question and would not have been able to answer it well. Such an experience would have made the students feel uncomfortable about taking classes in English.

In that sense, Klassen-sensei's approach helped the students feel motivated to study not only second language acquisition itself but also any subjects conducted in English.

In addition, the way she used Googleclassroom was very impressive. Googleclassroom was put up on the screen and students were free to write on it using their respective laptop, so the interactivity that had been realized online was also realized in the face-to-face class.

With this interactive visual aid, students were able to follow abstract content, such as how to paraphrase the content of secondary sources in English, without any problem, even when they were taking classes in English.

In so many ways, Klassen-sensei's class was very enlightening and inspiring to those who wish to teach their subjects in English to Japanese students.

④ Comments by the class teacher (Klassen-sensei)

The feedback is very helpful and I will use it to improve future classes. I appreciate the time of the class observers and their comments.

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2022 年

12 月

2 日

科目・専攻・委員会名

人文学科日本文学専攻

主任・委員長等責任者氏名

今井久代

授業科目	日本語学（表記・語彙）	授業担当者	柏野和佳子
授業形態	パソコンを使用し、グーグルクラスルームにアップされた質問をその場で解いてもらった結果をその場で資料として学生と共有するなど、パソコンを使用しての双方向授業		
授業参観実施日	11月 25日（金） 3時限	参観者数	5名 (内、非常勤講師 3名)
<p>（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見）</p> <p>① 日文では、紙と印刷で研究することが多く、近年のデジタルデータを利用し、データサイエンスなどといった学問領域から一番遠い学問である。そのなかで、パソコンを駆使し、ひいてはデータサイエンスといった領域につながり得る授業を展開されているということで、この授業を FD 対象とした。</p> <p>② この授業では、グーグルフォームその他の Web 上の交流空間を巧みに用いて、授業内での双方向性に常に配慮しているのが興味深かった。具体的には、自身のなかで興味深い語を選んで、その語について発表させるのみならず（あらかじめあてるという意味では通常の演習と同じ）、その場で語について考えさせるクイズを解かせ、その結果をすぐにまとめる（グーグルフォームの駆使）のが、自分が授業に参加しているという気持ちをもたせやすいだろう。そうした作業のなかで、語というものについて考えさせ、対義語類義語にもいろいろあることを発見させている（自身で簡単なことではあるが作業するので、講義を聞くより、自分で知る納得感もちやすい）最後にコーパスを利用して実際に検索し考えさせる時間もあつた。コーパスに全員でアクセスしたら、サイトが動かなくなったが、コーパスの結果データ（エクセル）をもとに、実地に分析方法を学んだ。（エクセルの扱い方に習熟）</p> <p>③ 専攻外の方が3名も参加されたが、電話でオフィスが承る形にしたため、こちらから連絡を取ることが難しくなり、感想を伺えなかった。グーグルフォームを使うべきだったと反省。Web 上に公開されている講義資料をダウンロードして利用する、といったごく初歩的なところから説明があるので、おのずと pc の扱いに習熟できそう。双方向型授業の可能性を知った。また、コーパスを使ってデータ処理するあたりがデータサイエンスの応用と思われた。こうして知らず知らず身につくのがありがたい。</p> <p>④ 学生は表計算ソフトが言語研究に活用できることに最初は驚きながらも、用例の頻度集計とグラフ作成の実習を通し、言語の計量的研究のスキルを習得しつつある。参観した非常勤講師より、学生がみな今日の課題のグラフ作成まで到達できていたため、自身の授業でも同様に試してみたいと話してくれた。</p>			

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2022 年 11 月 22 日

人文学科・歴史文化専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名

坂下史

授業科目	オーラル・ヒストリー	授業担当者	柳原伸洋
授業形態	学生参加型の演習授業。聞き取り調査の模擬実習等を含む。		
授業参観実施日	11月21日(月)5時限	参観者数	1名 (内、非常勤講師名)
<p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 歴史文化専攻の授業のなかでは実習的で、アクティブラーニングの要素も多い特徴的な授業のひとつであるから。また、授業参観実施当日は、学生による聞き取り調査の模擬的な実習を行う予定で、相互参観に最適な機会でもあったため。</p> <p>② 参観した日は聞き取り調査の実践を行う回で、受講生を数グループに分けてそれぞれテーマを決めてゲストスピーカー(本学卒業生)にインタビューを行った。1グループのインタビューが終わる毎に教員が注意点を丹念に指導し、また途中でグループミーティングの場を設けてインタビューの反省・討論を行わせるなど、受講生がオーラル・ヒストリーの手法を体得できるよう上手く組み立てられていた。</p> <p>③ 専攻主任は授業と重なり参観に行くことが出来なかったが、専攻所属教員のなかから参観者を得た。歴史研究の中核には史料の調査と分析があり、これを欠いた歴史叙述は学問的意味を持ち得ない。本授業は、聞き取り調査の結果が「史料」たり得ることを知らせるだけでなく、学生がその調査を自ら体験する点に大きな特徴がある。ふだん歴史書として手にしているものの背後に、「歴史研究の現場」があることを学生が身をもって知るという意味で意義深い。アクティブラーニングとしても意味がある。</p> <p>④ オーラル・ヒストリーはいわば「史料そのもの」を、歴史主体・実践者であるインタビューイから掘り起こす作業である。今回、学生4グループ(①入学前②大学生活③西荻窪の変化④現在の仕事)にそれぞれ分かれて、東京女子大卒業生かつ元寮生、そして現在も吉祥寺在住の方に聞き取りを行った。なかでも、大学生活の部分は聞き手の学生も熱が入り、予定時間の二倍もかかってしまった。1回の講義内で聞き取り実践を行うことの困難さがわかり、この点は今後の課題となる。ただし、各学生の目は好奇心に満ちていたし、良質な学問経験となった。</p>			

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2022 年 11 月 29 日

人文学科・歴史文化専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名

坂下史

授業科目	世界遺産学 B	授業担当者	大畑悟
授業形態	スライドを提示する講義形式		
授業参観実施日	11 月 28 日 (月) 5 時限	参観者数	_____ 1 名 (内、非常勤講師 _____ 名)
<p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 歴史文化専攻とコミュニティ構想専攻との共催授業であること。ドイツ観光局所属で実務経験が豊富な担当者であること。履修者の多い人気授業であり、また共催授業の実践について知る機会にもなること。</p> <p>② 前回授業の際のコメントペーパーの紹介とそれを踏まえた解説から導入しており、講義の連続性がわかりやすかった。鮮明で適切な画像の提示によって、講義で扱われている問題が容易に理解できるよう工夫されていた。語り口もゆっくりと丁寧であり、理解の遅い学生への配慮が感じられた。</p> <p>③ 専攻主任は授業と重なり参観に行くことが出来なかったが、専攻所属教員のなかから参観者を得た。この授業は、歴史文化専攻、コミュニティ構想専攻の専門科目として位置づけられており、一方の学生のみを念頭においた内容や構成ではないことが期待される。当日は、世界遺産と行政の関わりやそれに関連する問題などを題材に、それぞれの専攻の学生の問題関心に応える授業が展開されていたと聞いている。専門を跨ぐ内容を持つ授業の実践の好例と考えられる。</p> <p>④ 当日の授業の題目は「危機遺産とドレスデンの世界遺産登録抹消事件」であった。具体的な世界遺産に関わる問題を理解しやすいように、地図、現場の写真、報道画像などを毎回掲載するようにしている。大人数の授業であるが、なるべく双方向性を維持するためにコメントペーパーの傾向や疑問点に答えるように努めている。</p>			

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2023 年 3 月 16 日

国際社会科学科・国際関係専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 茂木敏夫

授 業 科 目	日本政治外交史 B	授 業 担 当 者	酒井一臣
授 業 形 態	対面授業で講義形式		
授業参観実施日	10 月 20 日 (木) 3 時限	参 観 者 数	_____ 5 名 (内、非常勤講師_____名)
<p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>①今年度赴任した教員の授業で、他大学での経験が反映されて、参考にできる点があると期待できる。</p> <p>②映像資料の使い方について、参考になった。 映像資料など資料を読み解くリテラシーについて、注意が払われている点がよかった。</p> <p>③オーソドックスな講義で、安定感があった。</p> <p>④本授業は、日本現代政治外交史を扱うもので、参観日は安保改定をとりあげた。右翼と左翼の違いなど、基本的な問題をどのように教授するか、映像資料をどのように利用するか、参観していただけるように心がけた。</p>			

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2023 年 3 月 27 日

科目・専攻・委員会名

国際社会学科経済学専攻

主任・委員長等責任者氏名

古沢希代子

授 業 科 目	金融論	授 業 担 当 者	長谷川克之
授 業 形 態	ゲストスピーカー（大手米銀東京支店 副会長）による金融機関のビジネス戦略に関する講義		
授業参観実施日	12 月 7 日（水）4 時限	参 観 者 数	<u>1</u> 名 (内、非常勤講師 <u> </u> 名)
<p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 選定理由 ゲストスピーカーによる講義を授業に組み込むことの効果を知ること。また、実務経験に富むゲストスピーカーによる教授法からの学びが大きいものと期待されたことから選定された。</p> <p>② ③ 参観者 (=主任) の意見 講義中、学生に対して質問を投げかけ、対話を行うことによって学生を惹き付け、大教室での講義であっても双方向の授業を実現している点は大いに参考になった。授業中に学生に考えることを求め、知識を詰め込むのではなく、学ぶ意欲をかきたてる手法も見習うべきものであった。質疑応答の時間における学生による質問は途絶えることがなく、内容も的確であり、そうした質疑応答によって理解が深まった。</p> <p>③ 担当者の意見 ・教室の中を講師が移動しながら講義を行い、学生を指名しつつ質問を求め、意見を問う欧米ビジネススクール流の講義を実践することにより、学生に緊張感を与え、かつ積極的な授業参加を実現。自らの経験に根ざした講義にはインパクトがあり、学生にとっても身近な事例や人物を紹介しながら、学生を魅了していた点にも感心した。また、本学出身社員のキャリアアップの事例にも触れて下さった。 ・講義資料に関しては、問いに対する回答を敢えて記さず、空白にすることにより、学生に考えさせる工夫もあり、参考になった。</p> <p>④ その他 日時の制約から参加者は教員 1 名 (+ 職員 2 名) のみだったが、授業担当者が専攻会議において報告を行い、成果を共有した。専攻主任は出席学生による本授業へのコメントも共有し、学生たちの反応がポジティブであり国際金融分野への関心が高まったことを確認した。</p>			

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2023 年 3 月 29 日

科目・専攻・委員会名 社会学専攻

主任・委員長等責任者氏名 社会学専攻主任 赤堀三郎

授 業 科 目	社会調査実習 II	授 業 担 当 者	赤堀 三郎
授 業 形 態	演習授業（対面授業）		
授業参観実施日	12 月 8 日（木） 5 時限	参 観 者 数	<u>4</u> 名 (内、非常勤講師 <u>0</u> 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

当該科目（社会調査実習）は、社会学専攻の専任教員全員が担当している科目であるため、FD という視点からみて、教員相互の授業参観の対象にふさわしいから。

② 参観者の意見

【教員 A】

社会調査実習 II（赤堀先生）の授業参観で、13 名の受講者が「教師」「役者・演劇」「音楽」の 3 つのグループに分かれ、調査目的、調査項目、インタビューの文字おこしなどについて発表形式で授業が進められた。ある意味ではシンプルな調査題目であるが、指導教員が各々の学生の素朴な関心をうまく救い上げ、調査の実施までの確に指導していった形跡がよくわかる授業内容であった。授業参観で学んだ社会調査実習 II の進行のコツを、私も来年度の実習 I、II で取り入れたいと思う。

【教員 B】

どのグループの発表も形式が統一されており、わかりやすい発表であった。伝わりやすい表現の形式を身に付けることは、大学教育の重要な課題であると実感した。

③ 主任の意見

今回の授業参観は、木曜 5 限という出席しにくい時間帯に行われたことから、授業の動画を撮影して、これをもって、出席できなかった教員にも授業参観の機会を提供するという工夫を導入した。それでもなお、授業参観に参加しなかった専任教員がいたのは残念なことであった。

④ 担当者の意見

今回の教員相互の授業参観は、学生が行ってきた社会調査（インタビュー調査）の中間報告であり、他の教員からの質問やコメントを頂く機会となったが、まず学生にとっても、普段の授業担当者ではない教員からの指摘を受けることで、社会調査の手法を多面的に理解するよい機会になった。加えて授業担当者としても、他の教員からの指摘を聞くことで、学生に対する指導の方法を振り返る良い機会になった。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2023 年 3 月 31 日
 心理学 学科・専攻
 科目・専攻・委員会名
 主任・委員長等責任者氏名 平林 秀美

授 業 科 目	感情・人格心理学	授 業 担 当 者	山口 慶子
授 業 形 態	対面		
授業参観実施日	11 月 7 日 (月) 1 時限	参 観 者 数	7 名 (内、非常勤講師 1 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

①授業科目の選定理由

心理学専攻 2 年次以上を対象とする特殊講義で公認心理師課程の科目であり、受講者数も多いことから選定しました。授業方法を参観者で共有し、各自の講義に役立てることを目的としました。

②参観者の意見

【コメント・感想】

・「前回の復習と補足」「参考文献」など提示し、あらたに講師が学生の学びを深められるような資料や知識を調べて紹介しているという様子がうかがわれ、講師の誠実さを感じました。また、講師が学生の関心や疑問を丁寧にひろいあげて話題に出していくという授業のありかたが、学生の主体的に学ぶ姿勢を育てていると感じました。

・多人数の講義であるが、グーグル・ジャムボードというアプリをうまくつかって、グループワークができるようにしていて、学生同士、また、講師との相互的な交流が積極的に行われている点もとても参考になりました。

・後ろの座席は、後ろの扉があいていると、向かいの講義の音がうるさくて集中することがむずかしい環境でした。扉を閉めることでかなり改善できましたが、マイクを通した声が、特に語尾の部分が聞き取りづらかったです。

・非常に丁寧に分かりやすく導入されたので、グループワークに効果的に取り組むことができているようでした。先行研究がとてもかみくだいて説明されていたので、感情の実際とデータとの関連に関する理解が深められていたと感じました。臨床と基礎がバランスよく取り上げられていたと思います。

・グループワークがどのように進行されていたのか分からなかったが（ツールが用いられていたようだ）、よいシステムであるようだったので、ぜひご紹介いただきたいと思います。学生は自分たちの意見が即座に共有されるので興味を持って見る事ができていたようでした。ビジュアルにうったえるものであり使ってみたいと感じました。

・共感に関する基礎研究も構成上余裕があれば取り上げられるとよいと思います。

・最初教室が狭いように感じたがきっちり座らないといけないので、グループワークは逆に席が近くなることで、むしろちょうどよい広さとなっており、やりやすいのかもしれませんが（教室が広すぎると席を移動

したりする必要がある)。

・重要なキーワードなどには出典も掲載されていて、非常に良いと思いました。上級生の受講も多い⇒卒論に活用する可能性があることを考えると、深めたいときに自分で調べられる手掛かりがあるのは重要と思いました。

・Jamboard を初めて知りました。グループ作業には便利そうなので、今後私も活用してみようと思います。私は普段、slido や LearnWiz などの意見集約のツールをメインで使ってきたが、Google のサービスに集約できるのは学生の使いやすさの点でも非常によさそうです。

・グループワークで挙がった意見の集約やフィードバックも為されていて、勉強になりました。やはり「やりっぱなし」にしない工夫は重要だと痛感できたので、自分のレクチャーでも欠かさないようにしたいと思います。

・動画を流しっぱなしではなく、学生と共有しながら少しずつ解説をされていたのが印象的でした。共通のイメージ・土台を持ちながら授業を進められるので、単なるレクチャーよりも効果的だと感じました。

・臨床心理学分野の特殊講義として心理臨床実践や日常ともつながる内容であり、適切かつとても配慮のされた授業だと感じました。また、DVD教材の視聴でも、グループワークに入る準備でも、丁寧にステップをふんで導入されており参考になるものでした。

・グループワークの議論を聞いていたが、個人の意見を集めるだけにとどまらず、違いを確認したあとに「～かな?」「どうなっているの?」というような問いが生成されていており、興味深く、またこうしたグループワークを挟むことの有効性を感じました。

・全体として、とても丁寧に授業が進められていたと思いました。後方の学生も含めて、学生たちは熱心に授業に取り組んでいたように思います。

・グループディスカッションでの Jamboard の利用も効果的であると思ったが、手元の PC でないと、他のグループの書き込みを読むのは、教室の後方では難しいように思いました。書き込むフォントの大きさを指定するなどすれば、解決するかもしれません。

【質問】

・グループワークが授業内容と有機的に関連するように配慮していること（形式／内容）がありましたら、教えてください。

・日本語版のセルフコンパッション尺度を有光（2014）ではなく、石村他（2014）を使用するのは何か理由があるのでしょうか。

・グループワークで Jamboard を学生に利用させる際に、あらかじめ学生に指示（指導）されていることがありましたら、教えてください。

③主任・委員長等の意見

授業を参観させていただきまして、ありがとうございました。「本日の内容と目標」を最初に話し、「前回の復習と補足」を丁寧に説明してから本日の内容に入る流れや、人数の多い講義の中でグループワークを取り入れて学生が積極的に授業に参加できるように工夫されている点が良いと思いました。

グループワークで使用した Jamboard は、これまで利用したことがなかったので、自分の授業のグループワークの際にも取り入れてみようと思いました。付箋の文字は小さくて読みにくかったので、各自のパソコンで確認する必要があると思いました。

④担当者の意見

この度は教員相互の授業参観において授業を実施する機会をいただき、また、貴重なコメントをいただきありがとうございました。着任初年度で授業の進め方を試行錯誤しておりますが、ご参考になりましたら幸いです。

<ご意見に関して>

授業の構成

全体的に、学生が主体的に受講し、学びを深められるように機能していること、また、大教室の後方の学生を含め、熱心に受講していることがわかり、安心いたしました。

毎回、その回の授業内容と目標を冒頭で明示することで、受講者が本科目全体における各回の授業の位置づけを理解した上で、その回で何を学び、身につけるのかを意識できるよう心がけています。これらは、同じように積み重ねの学習形式となっている通年の研修を受講した際に講師の先生から教えていただいた方法です。また、「前回の復習と補足」では、前回取り上げたトピックの順に、出てきた疑問やコメントを整理して補足説明したり、関連する先行研究を紹介したりしています。「補足」では扱いきれない部分もあるため、参考文献を提示して発展学習につなげるようにしており、後日、文献を講読したというお返事があつたりして、授業外学習用の文献として機能する側面があると思います。

このように、多人数の講義であっても受講者一人ひとりの反応に目と耳を傾けフィードバックしていくことで、受講者の理解度を確認するだけでなく、受講者から講師が学ぶことも多く、授業の改善に役立つと考えています。毎回提出を課しているコメントシートでは、ある受講者からの疑問に対して他の受講者のコメントが答えてくれていることもあり、授業を受講者と一緒に作っている感覚があります。

体験学習の工夫

授業の進め方の工夫として、本科目では講義に加えて体験学習を取り入れるようにしています。個人でできるミニエクササイズをすることもあれば、ご参観いただいた授業のようにグループワークを行う回もあります。特にグループワークでは、ご意見をいただいたように、導入時の丁寧かつわかりやすい教示、グループで出た意見の全体共有、取り上げた題材の解説、の重要性に気づくことができ、今後も意識して行っていこうと思います。後述する Google Jamboard は、グループディスカッションを全体共有する際のツールとして活用しています。

グループワークにおけるオンラインツールの活用

多人数の講義で Google Jamboard を活用した点が参考になったというご意見を多数いただき、使い方や使用感、改善点を今後先生方と共有していくことが望ましいと思います。学生同士、そして講師とのやりとりにおいて強みを発揮するツールであると思います。一方で、ご意見をいただいたように、大教室では「付箋」の文字が小さく読みづらいという短所もあるため、受講者は手元のノート PC やタブレット画面を閲覧する必要がある点に注意しながら使用していけるとよいと思います。

今回 Jamboard を導入したきっかけは、本学教育・学修支援センター (CTL センター) より新任教員向けの連絡をいただき、当センター仲谷佳恵先生より本ツールを教えていただいたことです。着任初年度で授業の組み立て方や進め方に暗中模索していた者にとって、教育工学の観点から解決策と一緒に考えてくださる場があることは大変ありがたく思います。その他にも、授業の特徴に合わせて教育方法やツールの活用例をご紹介しますので、ご関心がありましたら CTL センターのサイトをご覧ください。

Google Jamboard を導入したもうひとつのきっかけは、感染症対策です。グループディスカッション後に全体共有する方法として、コロナ禍でなければ数グループにマイクを順に回し、話し合った内容を発言して共有してもらっていたと思います。しかし、感染症対策上ご参観授業時点でそのようなことは難しかったため、全体共有のオンラインツールを活用しました。ゆくゆくは、受講者が社会人になり教える立場になった時などに、自ら活用していける可能性のあるツールでもあると思います。

受講環境の課題と整備

本科目の教室で、後方の扉を開けていると教室外 (例えば向かい側の教室) の音がよく聞こえ、後方部で講義に集中しづらいことは、改善策を検討すべきであると思っております。マイク使用時や視覚教材視聴時の音量調整には初回授業から苦心してきており、管財課の方に音響設定を調整していただいたりしてきました。感染症対策としての換気のための扉開放、教室機材の性能、外部環境などで制約がある中で、最後部の受講者にまで音声が届いているかこまめに確認し、その都度調整していく必要があると思われました。また、語尾が聞き取りづらいこともあつたということで、マスク着用している時にはより一層、最後まで言

い切るよう心がけようと思います。

併せて、後方からのスクリーンの文字の見えづらさについては、仰る通りです。スライド資料に関しては授業時に印刷配布するとともに、PDF データも送信し、手元の資料を参照してもらうようにしています。しかし、ご参観いただいた授業回のように DVD の字幕は配布できないため、今回は字幕が読み取れなくても取り組むことが可能な要素を含むグループワーク（話の内容よりも非言語的な部分への着目）にしました。

<ご質問に関して>

・グループワークが授業内容と有機的に関連するように配慮していること（形式／内容）がありましたら、教えてください。

→今回は授業で取り上げたトピック（感情調整と心理療法）の講義を踏まえ、心理面接の場面でそれらがどのように現れるのか、視聴覚教材で各自観察学習した上で、グループワークに入るようにしました。グループワーク導入時には、漫然と視聴覚教材動画を視聴するのではなく、授業のトピックの観点から気づいたことを話し合うよう教示しています。また、グループワーク後の全体共有および解説においても、今回の授業では感情調整の観点からの学びが促進されるようなフィードバックを心がけました。今回は前回の授業内容からの続きだったこともあり、互いに自由に意見を出し合うことを優先しましたが、他に、問い形式のディスカッションテーマを指定し、司会進行役、書記役など、グループ内での役割を割り振る形式も考えられます。

・日本語版のセルフコンパッション尺度を有光（2014）ではなく、石村他（2014）を使用するのは何か理由があるのでしょうか。

→論文出版されているセルフ・コンパッション尺度日本語版は、現在確認できる限り3つ存在します。そのうち、石村他（2014）が本邦初の尺度になり、有光（2014）よりも日本語表現が平易で理解しやすいと個人的に考えているためです。一方で、セルフ・コンパッションという概念の説明については、有光先生が心理学ワールドで一般の方向けに紹介している内容がわかりやすいと思います。今回の授業資料で両者を記載した背景には、概念自体の構造や定義が尺度開発とともに議論されてきており、こうした発展中の領域であることにもふれておく必要があると考えたためです。

・グループワークで Jamboard を学生に利用させる際に、あらかじめ学生に指示（指導）されていることがありましたら、教えてください。

→事前連絡では、cis-net を利用できるノート PC 又はタブレットを持参すること（スマートフォンではアプリをダウンロードする必要あり）、持参が無い場合にも不利益にならない形でグループワークに取り組めるやり方を説明しました。また、事前に講師が作成した Jamboard 内に、書き込みを自由にできるスペースを設け、任意で練習しておくように指示しました。その Jamboard の冒頭ページには、利用目的（意見を分かち合うためのスペースであること）を明記し、その次のページに書き込み方法を箇条書きにして提示しました。また、グループワーク時に指定されたグループ番号のページに書き込むように予め指示しておきました。今回の授業では、前回からの継続でグループディスカッションの内容を全体共有するために使用しました。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2023 年 2 月 21 日

科目・専攻・委員会名

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻

主任・委員長等責任者氏名

主任 加藤 尚吾

授 業 科 目	オーラルコミュニケーションスキルズ	授 業 担 当 者	吉村洋子（非常勤講師）
授 業 形 態	実習を含む講義科目		
授業参観実施日	11 月 25 日（金） 4 時限	参 観 者 数	3 名 （内、非常勤講師 0 名）
<p>（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）</p> <p>1) 選定理由 実習を伴う講義科目で、実務経験のある非常勤講師に日本語や多文化共生、言葉とコミュニケーションの理論的、実践的な授業についての相互理解と知識を深めるため</p> <p>2) 参観者の意見 今回の FD 授業では、日本語学校の学習者を招いてのワークショップであり、高大連携に倣って今後多文化共生の観点から日本語学校で学ぶ留学生と大学生を結ぶ連携につながる授業であったと思います。日本語学校の学生は日本で学んでいても同世代の日本人とコミュニケーションする機会があまり多くありません。本学の学生も同世代の留学生と対話する機会がそれほどあるわけではありません。今回の FD 授業は両者にとって貴重な機会となったと思います。 授業準備が周到になされていました。事前に双方で今回のワークショップのテーマである「世界一周旅行」に関する準備が行われ、それに基づいた活動となりました。特に本学の授業では前週に「わかりやすい日本語」でコミュニケーションするワークを行っており、その実践としての今回の授業という位置づけでもありました。 ワークショップの中では、しっかり伝え合える場面もありましたし、伝え合いがむずかしい場面もありました。個々の学生が活動を振り返り、より円滑なコミュニケーション、より伝え合えるコミュニケーションのために、今後どのような課題があるかしっかり考えていくことが求められると感じています。こうした実践的なコミュニケーションの授業は、今後、本学でも益々求められていくものと思います。また、今回の担当教員は実務家教員であり、これまでの職業人としての経験が十二分に活用されていると感じました。 学生さんたちがとても熱心に、楽しそうに主体的に授業に参加貢献していたのが印象的でした。</p> <p>3) 主任の意見</p> <p>4) 授業担当者の意見 今回の授業のデザインは、学び始めた日本語（日本語学校留学生）と母語の日本語を調整した「やさしい日本語」（履修生）を、互いに駆使しながら、活動を通して楽しくコミュニケーションを図ることを目標にしました。履修生にとっては、自分たちが当たり前のように話している日本語のどこが外国人にとって難しいのか、どのような工夫をすればよいのかという気づきと、意思疎通が図れた喜びを体験出来たのではないかと思います。 これまで留学生や在留外国人とは英語で話さなくてはいけないと考えていたり、「やさしい日本語」の存在を知らなかった履修生も多く、今回の経験が多文化社会の中でのコミュニケーションスキルとして活か</p>			

されることに期待しています。

授業は、ことばだけではなく身振り手振りやスマホの画像も見せ合い、終始和やかな雰囲気で行われました。翌週に留学生からお礼のお手紙も届きました。学生同士で交流が続いていることも喜ばしい限りです。

5) その他

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022年 11月 1日 (火)

科目・専攻・委員会名 数学専攻

主任・委員長等責任者氏名 新國 亮

授 業 科 目	複素関数論Ⅱ	授 業 担 当 者	大阿久 俊則
授 業 形 態	対面授業 (6 号館 6105 教室)		
授 業 参 観 実 施 日	10月 25日 (火) 3時限	参 観 者 数	<u>4</u> 名 (内、非常勤講師 <u>0</u> 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 数学専攻 3 年次の解析学分野の主たる選択科目であることから、本科目を選定しました。

② 参観者からの具体的なコメントは以下の通りです。

- ・前半はペースが速かった印象だが、中盤からスローダウンして板書を併用することで大変わかりやすい説明を行い、かつ論理的に多少細かい点は口頭で補足説明したりするなど、学生の内容理解に抵抗感ができるだけ少ないよう配慮されていた。

- ・要所要所で、これまで解析学分野を中心とした科目全般で学んできたこととの有機的繋がりが見えるよう、講義内容がたいへんうまく配慮されていた。

- ・授業の序盤で演習問題の解説と前回までの授業内容の復習を行ない、学生が当該の授業内容にスムーズに入れるようになっていた。また前期の複素関数論Ⅰの内容を用いるところでも、復習に深入りし過ぎることなく、程よい長さの言葉でリマインドさせて説明するなど、細かな配慮が随所でなされていた。

- ・スライドと板書との併用であったが、スライドの場合、画面の大小、フォントの大きさ、教室の明暗などを工夫することで、より学生から見やすくなるかもしれない。

③ 数学の授業についての一般論として、スライド利用の場合は予定していた内容を全て扱いやすい反面、授業のスピードが上がりがちで、一方、板書でゆっくり行くと説明はわかりやすくなる反面、予定通りには進まなくなりがちということがあります。そのバランスの取り方が工夫のしどころですが、参観者コメントにあるように、状況に応じてうまく方法を使い分けていた印象です。参観者コメント及び担当者コメントでも触れられている通り、数理科学科で学んできた解析学分野の内容との関係が随所に散りばめられていて、その構成は実に綿密かつ明快であり、全体像が明らかになっていく様子、また「ああ、あれはそういうことだったのか」と伏線が回収されていく様子はたいへん見事なもので、学生にとっても、「数学はひとつ」という感覚が培われ、また視野を広くすることが促される授業であったかと思います。担当者の力量は勿論のこと、長らく本学数理科学科において教育に携わってこられた経験の重みも感じられました。

④ 複素関数論はⅠ(前期)とⅡ(後期)の1年間を掛けて完結する理論展開を骨格とする内容のため、最後の方の段階にならないと、今までばらばらに扱って来たように見える諸事項の間の関連が見通せないという性格を持っています。そのため、証明や計算の細部を丁寧に説明することに加えて、要所要所で今まで勉強して来たことを振り返って話の流れを俯瞰することも重要であると考えています。普段の授業では、証明や計算の細部は主に黒板を使ってゆっくり丁寧に、復習や俯瞰的な内容は主にスライドを使って効率的に行っています。(スライドは板書の部分も含めて作成しています。)今回は俯瞰的な内容を主眼としたため、スライドを主にして黒板を補助的に用いて授業を行いました。内容を欲張りすぎて、細部の説明がやや粗雑になってしまった箇所もあったと反省しています。授業内容のスライドは前もって Google Classroom にアップロードして、学生が予習したり授業時に参照できるようにしています。また学生の理

解の確認のため、ほぼ毎週 Google Classroom で課題を出して採点返却しています。完全対面授業ですが、Google Classroom を活用することで学生の自習を促す効果を期待しています。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022 年 12 月 26 日

科目・専攻・委員会名 総合教養科目運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 工藤 恵理子

授 業 科 目	音楽芸術	授 業 担 当 者	中内 潔
授 業 形 態	講義形式		
授業参観実施日	12 月 13 日 (火) 4 時限	参 観 者 数	<u>2</u> 名 (内、非常勤講師 <u>0</u> 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

- ① 多くの教員にとって専門とは大きく異なる領域の授業を参観することで新たな気づきを得る。
- ② ちょうどクリスマスを迎えるこの時期に、クリスマスについての事柄やクリスマスの音楽について学ぶことができ、とても厳かで新鮮な気持ちになりました。教会音楽家だったバッハとオペラ音楽を目指していたヘンデルとの違いなど、授業のはじめからとても興味深く聞かせていただきました。指揮者の表情・表現なども具体的にお話しいただき、次回から演奏会に行ったときは注目して見たいと思いました。また、実際に目を閉じて聴くことと、観て聴くことの違いを感じることができました。とても面白い授業で、毎週出席させていただきたいほどでした。
- 実は、私は現在、近代体育の創始期における音楽を伴う遊戯・体操についての研究をまとめようと考えているところですが、音楽は人の心や身体を動かす原動力になると、先生の授業に出させていただき改めて思いました。
- 授業参観をさせていただき、最も強く感じたことは、常に担当者が学生に語りかけていらしたことです。自身の授業を振り返ると、私は学生に対して「説明」していても、語りかけてはいないと気づかされました。授業の構成も素晴らしく、受講生がメサイアを鑑賞することができる下地を作り、実際に鑑賞するという展開のしかたは、直接取り入れることはできませんが、自分の授業でも形を変えて、取り入れたいと思いました。冒頭に紹介された学生の授業へのコメントがとても優れた内容で、驚きましたが、授業を参観させていただき、学生のコメントは授業の内容を反映したものであるのだと、納得がきました。私も学生に深く考えたコメントを書いてもらえるような授業をしたいと思います。
- ③ 今回、まったく専門が異なる授業を参観させていただきましたが、たいへん学ぶことが多くありました。専攻内での授業参観では、テクニカルな部分に焦点が当たりがちですが、専門が異なることによって、授業とは何なのかを考える機会となったと思います。参観させていただき、ありがとうございました。
- ④ 音楽の場合も、一つの作品を視聴した時には学生一人ひとり全く異なった捉え方をします。80 人弱のクラスですが、学生たちは、隣に座っている知らない学生の、授業に対する感想や質問にとっても関心があります。その学生達からのコメントに対しては出来るだけ応えたいと思っているのですが、そのことにより予定の授業内容がこなせなくなる場合も出てきたりします。(ただ、学生はそちらの方に興味をそそられることもあるようですが…)
- 今回、先生方に「見られる」という場が与えられ、このような時間配分で良いだろうか、内容はこれで

十分だろうか、学生達の理解度を十分得られるだろうか、等々、私にとって普段行っている授業を改めて見直すことが出来たとても良い機会となりました。参観される側にも大きな学びがあるのだ、と実感しました。

こちらこそ、参観下さりありがとうございました。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022 年 11 月 30 日

科目・専攻・委員会名 第一外国語運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 川崎典子

授 業 科 目	Reading IIB	授 業 担 当 者	大友彩子先生（非常勤）
授 業 形 態	対面授業		
授業参観実施日	11月16日（水曜） 3時限	参 観 者 数	<u>6</u> 名 (内、非常勤講師 <u>1</u> 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

①Reading の授業内の学習活動や教科書の使い方についての意見交換に役立てたいと考えた。専任教員が見学しやすいよう水曜午後の授業を対象とした。

② Q1. How did you find Otomo-sensei's lesson?

◇ 一回だけの授業を見た範囲なので、的確に把握していないかもしれませんので、雑感です。活気に満ちている点、進め方のテンポのよさ、学生へのフレンドリーな姿勢などがよいと思いました。一方、誤答へのフォローや、文章を速読する力・まとまった文の文意をざっくりでもよいので把握する力などをつけさせる工夫もあった方がよいのではないかと思います。

◇ 学生とのフレンドリーな雰囲気がとても良かったです。単語を頭に入れるために、先生が発音する→リピート、先生が発音→書いてみる、その後 4 択で仲間外れを探す、などの方法が効果的だと思いました。

◇ The students seem to really like Otomo sensei, and they were paying attention to her the whole lesson. One student even raised her hand to offer an answer.

◇ 座席表も使わず学生に名前呼びかけていらっしゃることで授業の雰囲気がとても良くなっていると感じました。前半で新出単語に時間をかけていらっしゃいましたが、音節の切れ目などの時間を短縮し、語の意味や例文を確認し、正解以外がどうして外れなのかが納得できるような学習ができると良か

ったと思います。学生がよく反応していたと思いますが、予習やグループディスカッションを活用すると、単語ではなく文で答えることもできるようになると思います。スクリーンに問題や例文を提示して全員の視線を集める、時間を与えて考えるのを待っているあいだ学習者の様子を観察する、途中で数分リラックスできる時間を取るなどの工夫をすると良いように感じました。

Q2. Do you think that Reading II course is effective in enhancing second-year students' English proficiency? What possible improvements can you think of?

◇ 学生は慣れているのかもしれませんが、何をやるのかのご指示が分かりづらいときがありました。私の授業でもよくあるのですが、黒板に何をすべきか書く、パソコンで見せる、などをしないとイケないのかな、といつも迷います。学生が集中していれば問題ないのかもしれませんが…

◇ "Some points that could be improved on:

1. 65 minutes of class time were spent on various aspects of knowledge relating to 8 vocabulary items (e.g. spelling, sound segmenting, guessing the meaning). However, what word knowledge is most important for a reading class? Students need to know the meaning of the words. Some options: spend 10 minutes giving the Japanese translations, and then reviewing with English synonyms. Or, spend 10 minutes practicing dictionary skills, where students look up the meaning. (Guessing meaning is very difficult to do). Then, move on to the reading where they will see these words 'in action'.
2. Reading skills (e.g. predicting, skimming, scanning). It was not clear to me whether the students knew what those skills are. It was also not clear to me that they were in fact doing them when you told them to. For example, the text had several names and dates. Those are perfect items to practice scanning with. Students could keep a log of reading skills (with their definitions), and then tick them every time they do them. That way, they have meta-knowledge of what they are doing.
3. This was a reading class, and yet in 90 minutes, they read only three sentences in the introduction, and the first two body paragraphs. In a 90 minute lesson, they could read the entire text several times for different purposes. Students should always have a purpose for reading (and not necessarily, for purpose of answering comprehension questions).
4. Classroom management: seat the students near the front, with name cards, and move them around from class to class. You shouldn't have to walk to the back of the room to engage with the students.
5. Language of the teacher: Please do not apologize to the students for your English. You are the perfect model for them: a successful second language user of English. If you apologize, they will think they need to apologize as well. Your English is clear and provides an excellent model for the students. "

◇ 学生が音読中に新出単語以外の語につまずいているところがありました。今回の教科書は全部を消化するには難易度が高すぎるかもしれません。新出単語以外は辞書を使わなくても読める程度の教科書

で様々な能力を伸ばすことを目指す方が良いように思います。

Q3. Do you have any additional comments, questions, or concerns you would like to share with other teachers?

◇ 事前課題として学生達に予習をさせることで、授業時に解かせる時間が短縮でき、その分、内容を説明したり、問題を解いて解説するような時間に使えるような気がしました。

◇ "戦略的なリーディング(5種類のリーディング方法)が、TOEIC等にとっても有効だろうと思いました。私が韓国語講師のため、韓国語ではまだリーディングに特化した効果的教育方法が研究しきれていないので、韓国語にもこのようなリーディング戦略を応用できるだろうと思いました。また、韓国語の特性から韓国語のリーディング授業では、エッセイ、小説、新聞記事を読む、などの韓国語を楽しむための授業を行うことが多いです。このような授業ではどのような方法が有効なのか、研究したいと思いました。"

◇ "I was concerned that the level of the material was too high for these students. For example, they did some inferencing practice, but the words in the sentences were unknown to them, making it impossible to make inferences.
I was also concerned that six observers were in the room. That must have been nerve wracking for the teacher. One observer left half way through the class, behaviour which I felt was inappropriate and disruptive."

③ 運営委員長

◇ 授業参観の機会をご提供くださった大友先生と、ご参加くださりご意見をくださった先生方に感謝申し上げます。

なお、現在の小机配置ですと、学生の間に入って個別に対話するための移動がとてもしにくくなっています。授業の進行に遅れが生じる可能性がありますので、早い時期に元の配置に戻していただきますようお願いいたします。

④ 担当者の意見

1. 見学者の存在で、普段と比べて授業が進めにくかった点はありませんか？授業参観の方法について、改善すべき点があればご指摘ください。

特にございません。人数はいらしていただいたくらいが上限で丁度良いと存じます。緊張しました。

2. Reading II の授業を行う上で、困っていること、教科書・授業環境などで改善が必要と思われる点があ

りましたら教えてください。

教科書は毎年変更ではなく数年間固定でありますと助かります。ただ、教科書も改訂されたり、新しいものも出版されるので、変更は必要かもしれません。TOEIC 受験に関しまして点数は個人差がありますので、成績に反映しなくとも問題ないと考えております。

⑤ その他

貴重な経験を新カリキュラムに向けての研修に活かしてまいりたいと思います。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022 年 12 月 29 日

科目・専攻・委員会名 情報処理教育運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 春名 太一

授 業 科 目	情報処理技法（統計解析）	授 業 担 当 者	北澤武
授 業 形 態	対面授業		
授業参観実施日	12月 1日（木） 1時限	参 観 者 数	<u>2</u> 名 (内、非常勤講師 <u>0</u> 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

1. 授業科目の選定理由

データサイエンス教育について教員間で情報共有を行うため。

2. 参観者の意見

参観した授業では、受講生に授業内で課題に取り組ませていた。受講生たちは各自で課題に取り組み、授業担当者が適宜質問を受け付けていた。ある程度時間がたったところで、1人1人の受講生の課題を Google Meet により共有して全員で確認していた。課題内容について、授業担当者からの模範解答などにより、取り組み方の1つを受講生が学ぶことはよく行われるが、受講生1人1人の作業内容を全員で確認することで、お互いに自分とは異なる取り組み方の発見につながり、様々な取り組み方の学びにつながる有意義な方法であると感じた。

3. 主任・委員長等の意見

参観した授業の内容は2.と4.に記載のとおりである。レポート作成実習ではサンプルレポートとレポートのテンプレートが用意されており、テンプレートでは各章において書くべき内容が説明してあって受講生が取り組みやすくする配慮がなされていた。受講生は皆熱心に取り組んでいるようであった。2.と4.で述べられてる Google meets を利用した質問内容と教員の解説の共有については、情報処理教室の設備を生かした、高い学習効果が期待される大変よい取り組みであると感じた。データサイエンス教育を行うにあたり、講義資料をどのように準備しておくべきか、また授業時間中にどのように教授を行うべきか、の両面で大いに参考になる授業であった。

4. 担当者の意見

本講義は、データサイエンスの入門として、自分達で Web による質問紙調査を作成し、受講者同士等で回答し合う。そして、得られた回答結果を基本的な統計的手法を用いて分析し、その手法を理解しながら結果を解釈する。その後、得られた結果と考察をレポートにまとめることで、これらの手法を体験的に学ぶことを目指している。授業参観となった本時では、t 検定（対応なし）で分析した結果に着目し、Google Classroom に掲載された資料を見たり、教員の説明を聞いたりしながら、学生は自身の結果をグラフで表現する手法や、文章で論じる手法について学び、個々の結果に基づいたレポート執筆に取り組んだ。学生から質問が生じた際は、当該学生の画面を Meet を用いて画面共有し、教員モニターで全員に投影した。教員は共有画面を見ながら修正箇所や修正方法についてコメントし、学生はその場で修正を行った。これによ

り、同様のミスをしていると気づいた他の学生も、自身のレポートを修正することが可能になる。対面授業ではあるが、協働的な学びとして、オンラインを活用しながらに他者の分析手法やレポートの書き方を共有することで、理解できない学生をできる限り理解できるように支援する配慮を行っている。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2023 年 1 月 19 日

科目・専攻・委員会名

教職課程運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

大家 まゆみ

授 業 科 目	国語科教育法ⅡB	授 業 担 当 者	市川 紘美
授 業 形 態	学生 3 名（3 年生 1 名、2 年生 2 名）による模擬授業 履修者数 13 名うち出席者 11 名		
授 業 参 観 実 施 日	12 月 14 日（水）3 時限	参 観 者 数	<u>3</u> 名 （内、非常勤講師 _____ 名）

（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）

① 授業科目の選定理由

当該科目を選定した理由は、国語科教育法ⅡB が、国語科（中高）の教員免許取得を目指す履修学生が教育実習を行う前の仕上げとして、模擬授業等を通して実践的に学ぶための授業であること、そして教育実習に生かすための専門的知識の教授方法を教員同士で共有すると有意義だからである。

当該科目は国語科教育法の発展科目（国語科教育法ⅡB）であり、教育実習で実際に教壇に立つ前に、履修学生が模擬授業を行う。第 12 回目の 12/14（水）3 限の授業は、日本文学専攻の履修学生 3 名（3 年生 1 名、2 年生 2 名）による模擬授業の回で、高校 3 年生の現代文を教材としている。担当班（7 名）は事前に国語科学習指導案とワークシートを協働して作成する。そして国語科学習指導案、ワークシートを人数分印刷し、授業開始時に配布する。発表時においては班から教師役が 3 名、生徒役が教室にいる履修者全員となる。なお、一班につき評論的教材一つと物語的教材一つを担当し、模擬授業では半々に分かれて教師役を担当している。

模擬授業は 3 名の教師役の学生が交代で黒板の前に立ち、教育実習の本番と同様に板書をし、説明を行う。生徒役の履修者には、教科書を使用してワークシートの問題に取り組んでもらい、生徒役の学生が解答する。当該授業は教育実習を行う前に、実習生として必要な知識やスキルにとどまらず、教室全体の雰囲気や理解度を履修学生自らが教師役をつとめることによって確認し、個別最適な学びを体現するためのレディネスを習得するために重要な科目である。

② 参観者の意見

・教科指導法の授業を見学したのは今回がまったく初めての機会だったので、とても勉強になった。学習指導案の作成はもちろんだが、板書計画までも含めて、しっかりと指導プログラムの中に組み込まれていることが理解できた（国語科のため、ふだんはあまり目にする事の無い縦書きの板書が新鮮に感じられた）。履修生による模擬授業を参観した他の履修生たちが、積極的に質問やコメントを提出していたことにも感心した。担当の市川先生が、ふだんからそういう空気を作り出して授業運営をされていることが、よく窺える授業だった。

・「教科指導法Ⅱ」は、学習指導案の作成と模擬授業を課題とする科目で、グループによる方法と個人による方法とがあるが、それぞれに一長一短ある。今回は前者の方法で行なわれたが、その場合、授業づくり経験のない学生にとっては、互いの学びを交流させながら力量を高めていくことが可能である一方で、協働学習一般に指摘されるように、受け身の学生やフリーライダーの学生にどのように対処すればよいかとい

う課題があり得る。今回の公開授業は、いわば「本番」だったわけだが、ここに至るまでの学習のプロセスがどうだったのかが気になる。その点も含めた指導が望まれるのだが、非常勤講師の教員にどこまで求めることが可能か、専任教員との協力は可能かといった点について確認、検討の必要がある。

③ 主任・委員長等の意見

今回、国語科教育法の中でも発展科目であるⅡBを参観して、履修学生が協働して学習指導案やワークシートを作成していること、そして教師役の3名が交代で黒板に板書し、齟齬なく書き足していく様子を参与観察できた。教師役の学生は説明した後で生徒役の学生に挙手を求め、指名して、意見を述べるよう促していた。教育実習では教壇に立つだけでも緊張する。教師役の学生3名は、実際に授業を行ってみて、分かること、体得できること、実感できたことが多かったのではないだろうか。

④ 担当者の意見

前半50分の模擬授業を終えて、教師役の学生3名に感想を求めた。3名の学生は準備不足に見えた。ワークシートと板書を両方用いた授業の仕方が、うまく見つけられなかった。3名の学生からは板書案と実際の模擬授業の板書が異なっており、一部が横書きになっていた。国語科であることを考えると、意味段落を意識しなければならない。どこからどこまでが意味段落として切れるのか、教師役の学生がわからなくなってしまっている。学習者が今、自分がどこを学んでいるのか、この1時間で何を学んだのかを振り返ったときにわかるようにするためには、どのような改善点があげられるだろうか。なお、黒板には「形式段落第○段」や該当範囲の頁および行を書いていくように、また意味段落を示す際には小見出しを作るとよい。

今回の模擬授業は、導入、展開、まとめの3つに分けて授業を進められたことはよかった。一方、最終的な学習目標が不明確であった。授業後には履修者全員に振り返りのコメントシートをGoogle Classroomから提出させている。教師役の学生には担当教員から個別にコメントも返却している。授業内で出た意見や教員からのコメントをもとに、改善すべき点が見えたら、その点を改善して教育実習に生かしてほしいと考えている。

2022 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2022 年 12 月 26 日

科目・専攻・委員会名

学芸員課程運営

委員会

主任・委員長等責任者氏名

委員長 高橋 修

授 業 科 目	博物館実習 2	授 業 担 当 者	高橋 修
授 業 形 態	対面による実習		
授業参観実施日	12 月 16 日 (金) 3 時限	参 観 者 数	_____ 3 _____ 名 (内、非常勤講師 _____ 2 _____ 名)

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

- 昨年度の授業参観においては講義形式の授業である「博物館経営論」を選定したので、本年度は実習形式の授業である「博物館実習 2」を授業参観科目とした。
- 博物館実習は学芸員資格取得にあたり、最終段階に位置づけられる重要な科目である。博物館学芸員になるための第一の資質として、実物資料を正しく取り扱い、展示する能力のあることが挙げられる。そこで本学では実物資料を教材として用い、実践的に博物館資料の取り扱い方を修得し得る授業内容としている点に大きな特徴がある。
- 全学的に対面を主とする形式に戻したこともあり、あらためて対面ならではの授業運営上の工夫・改善点について議論する必要があると考えられた。
- また、学生同士のグループ作業を課した授業内容であり、アクティブラーニングの要素が強いことから授業参観に設定した。

② 参観者の意見

【当日の授業内容】

- 展示プランの組み立てを当日の課題とした。
- 授業運営上の工夫
 - ・授業全体の構成として、最初に説明を 30 分間実施し、その後で各班に分かれ、実技 60 分という配分とした。
 - ・展示を実施するにあたり必要な演示具（展示のための道具）類を図示した紙資料を配布し、授業理解の手助けとなるよう配慮した。
 - ・観覧者にとって分かり易い展示について説明するにあたり、パワーポイントを用いて説明した。受け身の授業とならないよう、スライドには 2 枚の写真を比較しながら考える構成とし、能動的に授業に取り組めるよう配慮した。
 - ・班分けにあたっては学生の自主性を高めるために、分け方の方法も含め、全て学生に委ねる方式とした。
 - ・展示プランの組み立てにあたっては、条件を提示（展示ケース内に展示、キャプションのサイズ・文字数の指定等）を提示した上で、実習室にある資料を自由に用いて良いという形式

とした。班ごとに展示資料・手法の選択、展示キャプションの作成を行わせた。

○対面形式の実施にあたり、コロナ対応上の工夫

- ・実習は全て対面形式。受講者は8人であったので、ある程度、空間的にゆとりを確保することが出来た。また、入口扉を開いた状態とし、換気にも配慮した。

【参観者から出された意見】

- 展示を組み立てるにあたっては、実物資料を実見することが不可欠である。学生は目録データに頼ってしまい、実物をよく観察し、その上で展示ポイントを見出すという領域には到達していないように見受けられた。
- 展示プランにあたっては、物理的に展示が可能であるのか、実際の資料寸法やケースサイズを採寸し、図上プランを組み立てることが必須である。学生の作業の様子を見ると、資料の内容に関心が集中してしまい、物理的な展示プランにまで思考を巡らす余裕は無かったように見受けられる。
- 以上の諸問題について、授業内でその都度、指摘すべきか、それとも課題終了後にまとめて講評した方が良いのか、そのタイミングについて意見が出された。現在までのところは、失敗も含めて学習上の経験であるという視点から、課題終了後に作業の問題点を指摘する形式とすることで意見の一致をみた。

③・④担当者の意見（委員長・授業担当者が兼務）

- 本来、資料の展示にあたっては十分な調査・研究を実施した上で行うのが原則である。1つの展示会を開催するにあたっては、論文1本を作成するだけの労力を必要とするが、現状ではカリキュラムの都合上、そこまでは到達し得なかった。学生もネット上の情報に頼ってしまい、専門文献を閲覧して調べるという段階には至っていない。文献調査のための時間を確保することについて、今後、カリキュラムを見直す必要がある。
- 本年度の新しい取り組みとして、学生の展示作業終了後、博物館見学の機会を設け、学生自身のプランと実際の現場のそれとを比較検討できるようにした。見学にあたっては、博物館学芸員と直接、対話できる場を設定した。展示プランの構築にあたり、授業の場と実際の現場との相違について考えられるきっかけとした。学生は熱心に学芸員に質問をしていたので、得るところが大きかったと考えられる。今後、こうした機会が学生の実技面の向上にどのように反映されるのか、検証する必要がある。

⑤その他

- 時間内に作業を終わらせることが学生にとって、年々、困難となりつつあることが看取される。タイムマネジメントも今後の重要な授業の課題である。